

### 研究発表① 放射線治療部門 座長集約

日本赤十字社医療センター 丸山 大樹

平成 28 年度日本赤十字社診療放射線技師学術総会の治療分野における研究発表は 4 演題が行われ、各施設の研究活動に対する意欲が感じられる結果であった。

#### 演題. 1

「KV-Imaging における市販ファントムを用いた品質管理の検討」は、広島赤十字・原爆病院 林氏より、施設ごとで基準を設けることが重要な画像照合装置の品質管理についての報告がなされた。今後も品質管理法を継続し、どのように施設の基準を決定したかの報告が期待される。

#### 演題. 2

「前立腺 IMRT における internal-error と膀胱内尿量の関係性について」は、名古屋第一赤十字病院 大橋氏より、前立腺 IMRT における膀胱内尿量によるセットアップエラーとの関係性について報告された。前立腺 IMRT は幅広い施設で行われつつあり高精度治療であるが、飲水などの前処置の重要性が明らかにされた。今後は更に多角的な視点で評価した結果の報告が期待される。

#### 演題. 3

「早期喉頭がんにおける頸動脈線量低減を目的とした照射法の検討」は、伊勢赤十字病院 谷貞氏より早期喉頭がんにおける治療計画法の違いによる頸動脈線量低減法について報告された。根治性の高い早期喉頭がんに対しての患者個々の状況に合わせた治療計画に関する報告がなされた。今回はファントム評価であったため、臨床応用の有用性に関する検討などの追加報告が期待される。

#### 演題. 4

「線源回収訓練をおこなって」は、日本赤十字社和歌山医療センター 嶋田氏より RALS 装置における線源回収訓練に関する報告がされた。緊急時マニュアルの作成および実践は非常に重要であり、今回指摘された事項などを吟味し今後も緊急時対応体制の構築を進めていただきたい。本報告は研究発表優秀賞に選出されており、構築された災害マニュアルが各赤十字病院の標準マニュアルとなることが期待される。